

～事業予定～

- 3月4日 視察研修(十日町市)
- 3月11日 森の学校
安全作業講習会(座学)
- 3月25日 森の学校
安全作業講習会(実地)
- 4月中旬 森の学校 山道具整備指導会
- 4月下旬 森の学校
きのこの菌打ち講習会
- 5月上旬 理事会
- 5月上旬 森の学校 干溝自然観察会
- 5月下旬 定期総会

つなごて

2018年
春号

2018年2月28日発行

発行：NPO法人魚沼交流ネットワーク

総務部・事務局

住所：〒946-0023 魚沼市干溝 1848-1

魚沼市小出郷文化会館内

TEL:025-792-1336 FAX:025-792-6776

Mail: npo@uonumakara.com

URL: <http://www.uonumakara.com/npo/>

Facebook: <https://www.facebook.com/npouonuma/>



感謝 新年を迎えて



今年の干支、戌戌(つちのえいぬ)の文字には、枝葉を切り払いながら、草木が繁茂する意味があるそうです。平成30年が健康で明るい年になることをお祈りいたします。

日頃より、NPOの活動にご理解とご協力をいただいている大勢の皆様方に感謝とお礼を申し上げます。昨年は文化会館の指定管理受諾が加わり、より一層、多くの皆様のお力添えをいただきながら、館の運営がスタートし、職員一同、新たな気持ちで一日一日取り組んでおります。今後とも、ご指導、ご鞭撻を宜しくお願いいたします。

人まかせではなく、一人一人が自分のよき、力を、個性を出し合いながら、つくりあげていく、そんな活動ができればいいと思います。よい所は残しながら、これからのものをつくっていく、この地域のよき、文化をどのように発信していくか、皆さんで知恵を出し合っていきたいと思っています。益々のご支援とご協力を宜しく願っています。

理事長 松田 光正



新年特別企画！

新年のつぶやき



私の2018年上半期は「静かなクライマックスが訪れる」そうです。正直意味がわかりません。ですが、今までと同じように生きるなど言われているような気がしています。そんな2018年を充実させる鍵は、自分の周りを見直すこと、空白を作る事、パターンを壊す事だそうです。静かなクライマックスってどんなと夜な夜な考えたところ、「一つ終えて、新しい何かを始める」というそのままの考えに辿り着きました。終わりたいと思っている事が一つありますが、果たして意気地なしの私にはそれができるのでしょうか。また、下半期はどうなっているのでしょうか。色々試される2018年、何とか生きて行こうと思います。

年女 高橋 利奈



昨年4月に文化会館が指定管理に移行してから初めての正月を迎えました。もつと混乱することを覚悟していましたが、思っていたよりもスムーズに運営でき、ゆつくり正月を過ごすことが出来ました。

昨年で一番思い出深かったことは、生まれて初めて車で田んぼに突入したことです。毎年路面が凍結すると道端に落ちている車を見かけますが、まさか自分が落ちると思ってもみませんでした。たいしたスピードも出ていなかったので体も車もほとんど無傷だったので幸運でした。慣れているからと言って舐めていると痛い目に合う、といういい教訓になりました。仕事も同じだと思えます。慣れているからと言って注意を怠らないようにしたいものです。



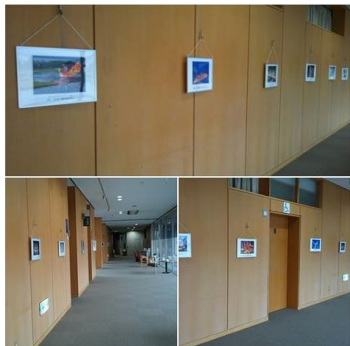
来年年男 木村 正弘

Facebookに注目！！



今回一番注目された記事は結の灯り
アートコンテスト作品展示(神湯温泉に
て)の記事でした！(11月上旬～1月末)

魚沼交際ネットワークさんが結の灯り 魚沼雪洞まつりさんの...
投稿をシェアしました。
作成者 伊藤 昌 19・2017年11月4日
歴代の受賞者の写真が見れる良い機会です！
是非、お立ち寄り下さい！



随時情報発信中！「いいね」してね♪

～事業報告～

11月30日 理事会開催

12月3日 クリスマスフェスタ

(キャンドル教室・木工教室・米粉スイーツ教室)

12月3日 忘年会

1月8日 新年会

1月27日 結の灯りオープニングイベント

1月28日 バレンタインフェスタ

(キャンドル教室・木工教室・米粉スイーツ教室)

2月3日 小出雪まつり協賛 小出国際雪合戦

(ゴミ分別指導・木工教室・キャンドル教室)



魚沼映画の専門店 『妻への家路』

日程…3月23日(金)～
25日(日)

※時間はチラシ等でご確認下さい

会場…魚沼市小出郷文化会館
小ホール

料金…一般 1,000円
学生、シニア 800円

春のジョイントコンサート

魚沼の自然に春を告げる音色が聞こえてくる♪

日時…3月18日(日)
開場 13:30 開演 14:00

会場…魚沼市小出郷文化会館
大ホール

料金…一般 1,000円
友の会・サポーターズクラブ 900円

アートの体験ひろば 『和太鼓』受講者募集！

日程…3月10日(土)
3月11日(日)

※時間はチラシ等でご確認下さい

会場…魚沼市小出郷文化会館
小ホール

受講料…小・中学生 1,500円
高校生以上 2,000円

講師…鼓童 齋藤 栄一

魚沼市小出郷文化会館 自主事業
おすすめプログラム♪



■交流事業部主催

早春の十日町ツアー 参加者募集中！

日時…3月4日(日) 8時～15時

※8時に小出駅集合

行き先…十日町市中央公民館 段十ろう

越後妻有交流館 キナレ

参加費…無料

※電車代・昼食代参加者自費

申込み…NPO法人魚沼交流ネットワーク
事務局まで



■会費納入のお願い

当NPOの年度が4月からとなるため、例年より
早く納入のお願いを送付させていただきました。

正会員…3,000円

賛助会員…10,000円

※納入方法は、4月27日(金)までに同封の払
込用紙にて振込みいただくか、事務局へ直接
お支払いください。

〽編集後記〽

ここ数年、割と小雪の年が続いてたせいでしょいか…
今年の雪はとんでもなく多く感じます…。これが魚沼の
通常なのか？それとも異常なのかは分かりかねますが、
雪疲れの方を多く見るのは確かです。

幸いながら、私の周りでは大きな事故や怪我をした
人は今の所おらず、一安心しています。このまま何事も
無く春を迎えられますように…。

にと、車で行くことにした。

景色の良い所でコーヒーでも飲もうと湯沸道具とコーヒーセットを積んで演奏会の前日に出発。日本海側を通って弘前市に向かう。天気は快晴、景色のいい海岸でコーヒーを入れた。ささやかではあるが非日常的な、こんなことがうれしい。さて次はガイドブックを開くと、男鹿半島の岬に「ウニ井」名物とある。当初立ち寄る計画はなかったが、急遽コースを変更して男鹿半島へ向う。これがいけなかった。結果、2つの大きな後悔をしてしまった。一つは、楽しみにしていたうまいはずのウニ井。裏切られたショックは大きかった。二つ目は、ゆつくりと周りの景色を楽しみながら夕方までに現地入りしようと考えていた旅が、男鹿半島での予想以上の大きな時間ロスで、必死に車を走らせる旅行になってしまった事だった。道中でいろいろあったものの「The TSUGARU SHAMISEN 2017」は時間をかけてでも行くだけの価値あるものだった。「小出郷文化会館のホールでこの演奏を聴いたら、もっと素晴らしい音響だったろうに……」と思いつながら、地元の人に聞いたお勧めの飲み屋へと演奏会終了後向かった。次回へ続く……

記 大平 明



只見線沿線の未来へ(続き)

昨年の春号に、平成23年7月の福島・新潟豪雨により福島県内において線路が途絶えていた只見線が、2020年の全線復旧に向け新たな活動が始まったという記事を掲載させていただいた。その続きを少し書かせてもらおう。

以前からいろいろなメディアランキングで上位の只見線ではあるが、沿線地域(特に魚沼市)にとって経済効果はあまりないというのが現状だ。「人気はあるが本数が少ない」「沿線イベントとのコラボがない」「沿線地域の魅力と連携がない」「撮り鉄さんは多いが鉄道に乗らない」などの課題がある。運行本数など運営体制は沿線住民だけでは解決できないが、現在の只見線沿線にある魅力を再発見し更に磨き上げ、そして繋ぎ合わせて新たな発信をすることはできる。当法人が参加している、だんだんども只見線沿線元気会議ではそんなワークショップを開催している。1回目では様々なキーワードをあげ、2回目ではそれらを「泊まる」「食べる」「歴史文化」「体験」「観光スポット」「パワースポット」の6つのジャンルに分けたところだ。4月15日(日)に3回目を開催し、観光ガイドマップを作成する予定。

2020年の再開通という大きな目標が出来た今、ただ単に線路を復旧して列車を走らせることだけでなく



く、地域の再生や活性化につなげる大きなチャンスだと思う。只見線を利用した経済効果を生む地域資源の商品化を住民自ら考えてみませんか。

記 井口 勉

仮想体験 実体験 三

短い滞在ながら、私が感じたその幾つかの「体験」をランダムに話したい。一つでもいいなと思うことがあったら実際に行ってみて欲しい。やっぱり、バーチャルよりリアル。

今回は、イタリア。言語イタリア語。首都ローマ。「ローマの休日」のスペイン広場は有名。夕方行ったら観光客は少なく、犬の散歩に来ていた地元の人とも話せた。ローマにはバチカン公国もあり、守る衛兵も華やか。バチカン美術館のシエスタナ礼拝堂の天井画は圧巻。有名な作品を有する美術館も各地にあり、ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ボッティチエリ等々、観賞できる。「最後の晩餐」も教会で見学できる。世界遺産も多く、遺跡も街なかで見られる。

食の話も欠かせない。基本的に美味しい。パスタ・ピザは前菜の部類で、コースを最後まで食べたい人はメッツォ(半分)にしてもらったほうがよいかも。良いレストランの開店時間は早くなく、予約ありでも時間前には開けてもらえなかった。頼んだオレレンジジュースが赤かったのでトマトジュースかと思ったらブラッドオレレンジだった。それだけポピュラー？水は炭酸を含むものが普通で、日本でいう水はミネラルウォーターとなる。レストランでは水とハウスワインの値段が同じ位。やはりヨーロッパ、乾燥していて、夜洗った小物がバスルームで乾く。石畳の街は冷えていて、冬は日差しがあってもいつの間にか芯まで冷えていくので注意。ブランド物も多いが、こだわらなければ良質な革製品などもお土産にもよい。美術館の絵葉書もおすすめ。

記 佐藤 鈴子



魚沼で子育て こいでおやこ劇場



私が「こいでおやこ劇場」を知り入会したのはつい最近だが、創設は30年前だ。ということで、ご存知のNPO会員も多いと思う。「子どもたちに夢とたくましく豊かな創造性を」と願い地域のお母さんたちが始めた。間近で生の舞台を見る例会を年2回、おしゃべりやお茶飲み等をするお楽しみ会を月1回開催している。会員減少により財政状況が厳しいが、生の舞台による迫力や感動を親子で共有してほしい、と活動を続けている。



↑ありし日の例会の様子

創設者の大平さんは、「例会を観る子どもたちの瞳の輝きや感想はどれも心を動かされている様子がよくわかります。また、団員さんと一緒に舞台の搬入出をするので子どもたちは団員さんのお芝居への思入れや人柄から感じ取るものがあります。メディアを通しては知ることができません。」と、会の魅力を教えてくれた。

会代表の広井さんは、「地域の子どもたちに生の舞台を届けたい。また、世代を越えて交流できるところが面白い。お楽しみ会では、現在子育て中の世代に自分たちの経験を伝えたり、子どもとふれあいをさせてもらってありがたい。」と話す。

私は昨年、例会で劇団うりんこの「ともだちや」を観た。親子で大満足だった。お芝居が面白かったので、娘と一緒にシリーズの絵本も全て読んだ。お楽しみ会では、広井さんに生後5ヶ月の次女をあやしていただき、久しぶりに長

女と二人で思い切り遊べて、ひたすら感謝の思いだった。肝心の子育て世代の入会が少ない。私は経済的に苦しくても芸術を身近に感じたい。子どもには、幼少期の心の豊かさは一生の財産になると思っている。こいでおやこ劇場はお楽しみ会である。NPO会員の皆さん、息子さんや娘さん、嫁さんにお勧めです。

会費4歳以上1人800円/月。賛助会員は年会費3,000円でおやこ劇場主催の例会を1つ鑑賞できる。お楽しみ会は会員外も大歓迎。

問合せは広井さん090-1534-1144まで。

記 品田 美幸

ディズニーが魅せてくれた世界 第4幕 歴史の世界



ディズニーと言えば夢と魔法の世界。そう、可愛く季節ごとの色鮮やかな装飾、絵本から飛び出してきたかのような建物が並んでいる。

しかし、ディズニーシーのアメリカンウオーターフロントというエリアでは20世紀初頭のニューヨークを再現している。この20世紀初頭というのは、交通機関も目まぐるしく変わっていった時代であり、このエリアではその歴史を伺える。

まずは、鉄道。蒸気機関車から電氣を使用するものになった。ディズニーでは『エレクトリック・レールウェイ』というアトラクションが、当時の駅舎や電車の走る音を再現している。そして、地下鉄。これはアトラクションには無いのだが、『SUBWAY』の文字や地下へ降りる階段が存在する。次に路面電車。これもアトラクションでは無いのだが、地面には線路が引かれている。車が主要となり、路面電車は衰退していった歴史が伺える。最後は馬車。電車、車が主要な時代になりつつあったが、ホテルには馬車寄席の場所が設けられていたようで、これは人気アトラクション『タワー・オブ

ブ・テラー』の近くに存在する。

このようにアトラクションから歴史を伺えるもの、そして小さな看板やちよつとした建物から20世紀初頭の歴史が伺えるのだ。

皆さんも訪れた際には、この古き良き世界を眺めつつ歩いてみてはどうだろうか。

余談だが、このエリアではホットドックが売っており、それを食べつつ、このエリアの風景を眺めるのが私のお気に入りである。



↑お気に入りのホットドックと地下鉄への入り口

記 伊藤 萌

300人の津軽三味線大合奏を訪ねて パート1 旅の途中にて



ある日突然、妻が「300人の津軽三味線大合奏があるから行ってみない？」とスマートフォンを私に見せながら話しかけてきた。会場は何処かとよく見ると、なんと青森県弘前市ではないか。内心「遠いなあ」と思ったものの、考えてみれば10年以上、二人でどこかへ旅行したことが無い。久しぶりの旅行も良いなと考え、出かけることに同意。どうせ出かけるなら行く途中で各地の名物を食べられるよう